

JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒100 東京都千代田区日比谷公園1番3号

市政会館内

電話03(3508)7691(代)



No.13

1993年8月

1993年(第9回)日本国際賞は米国の2博士が受賞 安全・防災、医学における細胞・分子生物技術分野で



フランク・プレス博士

(財)国際科学技術財団が、世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を顕彰する1993年(第9回)日本国際賞の授賞式が、4月28日(水)、東京・国立劇場で行われました。

今年度の授賞対象分野は安全・防災と医学における細胞・分子生物技術の2分野で、世界各国の学者、研究者からそれぞれ195件、394件、計589件の推薦を受け、この中から米国の2博士が受賞者に選ばれました。安全・防災分野では、近代地震学の発展ならびに災害科学における国際活動を推進した功績により、全米科学アカデミー総裁のフランク・プレス博士(68歳)が、また、医学における細胞・分子生物技術分野では、ポリメラーゼチェーン反応(Polymerase Chain Reaction PCR)の開発による業績により、アトミック・タッグズ社創業者・研究担当副社長キャリィ・B・マリス博士(48歳)が受賞しました。



キャリィ・B・マリス博士

JAPAN PRIZE

天皇皇后両陛下のご臨席を賜り

厳かに授賞式を挙行

授賞式は、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、参議院議長、最高裁判所長官、文部大臣、科学技術庁長官ら官界代表のほか、在日外国大使・公使ならびに財界、著名な学者・研究者、言論界代表等約800名が出席し、厳かに挙行されました。

新日本フィルハーモニー交響楽団(堤 俊作指揮)による日本国際賞オリジナル曲「日本国際賞式典序曲—Overture Japan」(三木稔作曲)の演奏で幕開けとなり、伊藤正己財団理事長の開会の辞、近藤次郎審査委員長による審査結果報告および受賞者の紹介、審査委員会各分野部会長による贈賞理由の説明に続き、2博士にそれぞれ日本国際賞の賞状、賞牌および5,000万円が伊藤理事長より贈られました。

受賞挨拶のなかでプレス博士は「国際防災の10年プログラムのスタートをお手伝いしたことに対し、過大な評価をいただきました。このプログラムは世界中の科学者、技術者のご支援がなかったら可能ではなかったと申しあげることが出来ます」と述べ、またマリス博士は「一つの簡単な発明をただ

今この瞬間にも世界中の多くの研究所で使われているツールへ発展させました多くの科学者を代表して、感謝の意を込めてこのすばらしい賞をお受けいたします」とそれぞれ受賞挨拶を述べました。



華やかに春宵の宴

両陛下御臨席のもと祝宴開かれる

授賞式に引き続き、同日夜、東京・ホテルニューオータニで天皇皇后両陛下ご臨席のもと、政府代表、在日アメリカ合衆国大使をはじめとする在日外国大公使および各界名士約400名を招いて、盛大に祝宴が開催されました。

伊藤理事長の挨拶ではじまった祝宴は、ディナーのあと受賞者両博士の栄誉を讃えて天皇陛下より乾杯のご発声を賜り、続いて三権を代表して草場良八最高裁判所長官から乾杯のご発声があり、さらにプレス博士夫人の内助の功に対し、またマリス博士の婚約者に対し花束が贈呈されました。また、日本国際賞の益々の発展と世界平和と繁栄への寄与を祈念して中島 衛科学技術庁長官のご発声による乾杯が行われたほか、在日外交団を代表してサウディ・アラビア王国特命全権大使ファウズイー・ビン・アブドル・マジド・ショボクシ閣下による祝辞、さらに受賞者両博士の国を代表して在日アメリカ合衆国特命全権大使マイケル・H・アマコスト閣下によりクリントン大統領から両博士への祝辞披露が行なわれ続いて同大使閣下の祝辞が述べられました。

最後に受賞者両博士が若き学生時代を過ぎた大学のカレッ

ジソングや故郷の歌を千葉大学、宇都宮大学の混声合唱団が合唱、宴の雰囲気がいっそう和やかになったなかで、プレス博士、マリス博士がそれぞれ謝辞を述べられ、厳粛で華やかな宴も終宴となりました。



JAPAN PRIZE

天皇陛下の おことば



第九回日本国際賞の授賞式に当たり、安全・防災分野においてプレス博士、医学における細胞・分子生物技術分野においてマリス博士が、それぞれ受賞されたことを心からお祝いいたします。

プレス博士は、地震や地球内部の構造について先駆的な研究を進められるとともに、自然災害の防止に関する国際協力の推進に大きく貢献されました。また、マリス博士は、遺伝子解析において革新的な技術手法を開発され、その成果は生命科学の発展に様々な影響を与えるものと考えられます。両博士の御研究は、自然災害の予防や疾病の克服を願う世界の人々にとって、極めて大きな意義があるものと思います。ここに両博士の優れた御業績に対し、深く敬意を表します。

世界は、今、様々な課題に直面していますが、科学技術が、それらの課題を克服し、世界のすべての人々に恩恵をもたらすよう、更に発展していくことを望みます。

この授賞式は、今回九回目を迎えました。発足以来、理事長として、また、会長として、この賞の発展に努められた横田喜三郎博士のお姿に、この式場で接することができないことは、誠に残念なことであります。ここに、博士の亡くなられたことを心から悼むとともに、博士のこの賞に対する御貢献を讃えたいと思います。

日本国際賞が、世界の科学技術の振興に一層寄与することを願い、式典に寄せる言葉といたします。



日本国際賞週間

1993年の「日本国際賞週間」は、4月26日（月）から5月3日（日）までの1週間で、この間、国際科学技術財団は授賞式・祝宴のほか、記念講演会を開催するなど各種行事を行いました。



アメリカ合衆国大使主催歓迎レセプション(4月27日)



日本プレスセンターにおける受賞者合同記者会見(4月30日)



日本外国特派員協会での昼食懇談会(4月30日)



日本学術会議講堂での受賞記念講演会(4月30日)

JAPAN PRIZE

ストックホルム国際青年科学セミナーへ 2学生を派遣

財団国際科学技術財団は、ノーベル財団と密接な関係を維持しており、同財団の後援によりスウェーデン青年科学者連盟が主催し毎年12月初旬ノーベル賞週間にストックホルムで開催されるストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)へ2名の学生を派遣しています。昨年度第17回同セミナーには日本大学大学院理工学研究科 土木工学専攻の遠藤慶子さんと東京医科歯科大学大学院 生体機能制御歯科学系 発生機構制御学専攻の井関祥子さんが派遣されました。以下はお2人のレポートです。

■ 遠藤慶子 (日本大学大学院理工学研究科 土木工学専攻2年)



ノーベル舞踏会における遠藤さん(中央)

昨1992年12月4日から11日までの、ノーベル・ウィーク中に、第17回ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)が開催され、私はこのセミナーに参加する機会に恵まれました。

セミナーの目的は、世界各国から科学を学んでいる学生らを一同に集め、ノーベル賞受賞者との貴重な交流の機会を持たせる等、科学技術の高揚を計るもので、今回は17ヶ国、16歳～28歳までの学生が参加しました。

またセミナーでは、ノーベル賞受賞者による講演、ノーベル財団への表敬訪問、カロリンスカ・インスティテュート見学、シルビア王妃への表敬訪問などスケジュールが組まれ、緊張の連続でした。授賞式、晩餐会、舞踏会はフォーマルなので、私たちは民族衣装である着物を着て出ましたが、

振りそではダンスには向かないと痛感いたしました。

パーティでは受賞者の方々に、研究について直接伺う事ができ、非常に有意義な体験となりました。何より心に残ったのは、青年科学者たちを前にした受賞者の言葉です。

「Go Your Own Way」

■ 井関祥子(東京医科歯科大学大学院 生体機能制御歯科学系 発生機構制御学専攻)



シルビア王妃と握手する井関さん

今回思いがけずストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)に参加し、その一環である第91回ノーベル賞授賞式、およびその関連行事に出席する機会をいただきました。

ストックホルムの人々にとって、毎年12月10日に行われるノーベル賞授賞式はある意味でのお祭りです。授賞式のほかに、受賞者の講演、レセプションが催されるし、商店や百貨店にはお祝いのディスプレイを施しているところもあります。授賞式当日がクライマックスであり、コンサートホールでの授賞式後に市庁舎で晩餐会が行われます。授賞式と晩餐会の様子はテレビで放映されますが、晩餐会では一つの料理ごとにアトラクションがあり、テレビをみている人も十分に楽しめます。

授賞式を始めとして講演やレセプションに市民の誰もが参加できるというわけではありませんが、科学者にとって最高の名誉であるノーベル賞の授賞式がこの地で行われるという誇りが感じられ、街全体が盛り上がっています。このように厳粛で、かつ市民に愛されている授賞式に参加できたことを光栄に思い、セミナーを通じて科学を専攻する海外の学生と交流し、いろいろな考え方を知る機会を与えてくださった関係者の方々に感謝するばかりです。

1994年(第10回)日本国際賞 の受賞候補者審査開始

1994年(第10回)日本国際賞の受賞対象分野は航空宇宙技術と心理学・精神医学の2分野です。すでに世界各国から多くの受賞候補者推薦状が寄せられており、現在、国際科学技術財団内に設けられた日本国際賞審査委員会によって審査が行われています。受賞者決定の発表は本年12月、授賞式は来年4月を予定しています。

「やさしい科学技術セミナー」 毎月開催

財団国際科学技術財団は日本国際賞の顕彰の他に、科学技術に関する知識や思想の普及・啓蒙を図るため、著名な科学者、研究者をお招きして、毎月(原則第4水曜日18時30分～20時30分、於：星陵会館、千代田区永田町2-16-2 電話03-3581-5650)「やさしい科学技術セミナー」講演会を無料で開催しています。

科学技術のさまざまな分野にわたり、タイムリーなテーマをわかりやすくお話いただくものです。平成5年度の年間シリーズテーマは『「からだ」に迫る科学と技術』で8月末より年内の予定は次のとおりです。

講師	予定テーマ	開催月日
東京大学医科学研究所教授 黒木登志夫	「細胞社会のルール」 —正常細胞とがん細胞	8.25(水)
東京大学工学部教授 甘利 俊一	「ニューロコンピュータ」 —ヒトらしいコンピュータを求めて	9.29(水)
東京大学医学部教授 多田 富雄	「免疫」 —「からだ」を維持する黒子の正体	10.27(水)
東京電機大学工学部教授 柿倉 正義	「知能ロボット」 —ヒトに近づくロボット	11.24(水)
東京工業大学工学部教授 田中 穂積	言語理解システム —「ことば」を理解するコンピュータ	12.22(水)

